

出席者数：18名

評価提出数：15名（回収率 83.3%）

1. コロナ禍でさまざまな困難を克服してきたことと思います。

本日の研修はあなたにとってどのような意義がありましたか。

- ・とても有意義な時間を過ごせた。副看護部長になって看護管理室内で看護が語られなくなっていることに気づかされた。病床稼働率や診療単価ばかりが中心となり、看護管理者として再度何をしなければならないのか気づかされた。
- ・臨床現場のリアルな対応がよく理解できた。「心に寄り添う」ということをセカンドレベルの看護の本質で紹介させていただいた。
- ・コロナ陽性の患者受け入れの病院のPDCAを学べて、自身が経験できないマネジメントの情報共有ができたことに意義があった。立場が変わった時にこのように事を進める。このようにスタッフを守る、師長（部下）にタスクシフトするなどいろいろ考えることができた。樋口部長の苦勞、日々どのような実践されたかが目に浮かび、何度か涙が出た。看護は日々患者さんの方を向いていることがよくわかった。
- ・看護部長としてどこまで介入するのか、他者を通してやるのかを考えることにとても重要な研修になった。他施設の意見、価値を大事にした意思決定、看護部長の話聞いたのは貴重な時間になった。ただただ本質は“看護”そして“ともにやる”ということを大事にやっていきたいと思った。
- ・自施設の取り組みを振り返る機会となった。（改めて他施設の内容をきき、改めて自施設を客観的に振り返ることができた。）そして今後の”課題“…自分自身の課題を具体化できたように思う。
今までの研修（井部塾）のまとめの回となった。井部先生のミニレクチャーの内容がずっと頭にいった（心に響いた）。
- ・コロナ禍の発表者の病院の状況がわかり、自分の病院を振り返る機会となった。波毎にまとめることを行いたいと思った。
- ・上級管理者の苦勞や工夫、現状を知ることで、様々な思いが報われた。COVID-19への振り返りを改めて行うことができました。
- ・他施設の現状を知ることができたので、大変勉強になった。上級管理者ではないが、師長として看護を語り、自分の気持ちを言葉で伝えていく必要がよくわかった。
- ・他病院でのコロナ感染症対応について知ることができた。意見交換で管理者のストレスマネジメントが大切だと思った。
- ・様々な意見を伺えたことが学びとなった。マネジャーは、場合によっては「捨て去ること」も大切であるという言葉が心に残った。
- ・当院は協力医療機関としてフェーズ5では、10床のコロナ病床を運営している。第1波から現在の6波までを樋口部長の発表を聞かせて頂き自分が行ったマネジメントを振り返ることができた。研修の初めに井部先生のミニレクチャーで「うきぼりになったこと」を頭に置き、振り返りを考えると自分の行動に意味づけできたり、反省、課題が見えてきた。大きくは行動してきたことに対して自信を持つこ

とができた。ピンチの中にもチャンスも多くあり、マネジメントの楽しさもあった。

- ・コロナ禍で周りとの接触が減り、研修も対面がほとんどなかったため、本日の研修を楽しみにしていた。看護部長になって2年目でクラスターを体験し、管理者としての対応がどうだったのか、今回の研修に参加し、他の病院の管理者の方の体験を通して振り返ることができた。

研修のなかで自分自身が発表できて良かったと思う。井部先生からの言葉にあったように、病院が私の指示で動く体制になっているのは事実です。それはしっかり受け止めている。これからこの体制を変えていくことが私の役割でもあると思う。弱体化する前に組織で動く体制に変えていきたいと考えている。本日は参加し、とても刺激になりました。

- ・ミニレクチャーを受け、自身を第三者的に見つめ直すことができた。第一波の時に、自分をいかに見失っていたかを痛感できた。さらに樋口部長はじめ塾生の皆様の実体験を聴き、自分にできていたこと、そうでなかった事、こうすれば良かった等振り返りの機会となった。看護部長として、改めて、組織に貢献し、自施設の患者にとどまらず地域住民の健康と安全に力を尽くしたいと強く思った。
- ・井部先生の話はとても有意義だった。先に何をすてて、コロナに対応するかについても井部先生のコメントは納得できた。井部先生が最初にエイズ患者の対応、さらにサリン事件に対応されたこと等からパンデミック時の対応の仕事、また、考え方など、現場からの知恵・知識はととても尊敬できる人間像をつくられているのだと思った。まだまだたくさんを教えてください。
- ・私は看護副部長です。自施設は準備病床の機能を受けています。樋口さんの発表のように何が正しいのか、何が必要な情報なのか分けられない状況で、2020年4月1日を迎えた。病院長の意思決定と発信が大切であったこと、同じ危機意識をもつことで、混乱を乗り切ったという言葉が印象的だった。自施設がどうだったか、私とその時どう動いたか、思い返す機会となった。
- ・上級看護管理者は“平時は不明確なことを伝えない、有事はわからないことも伝えていく”
- ・「すてるものを先に決める」コロナ禍でも平時と同じように…と考えていましたが、その考えがスタッフを苦しめていることに気づいた。
- ・”世間話の値打ち“を伝えます。

2. 会場は快適で安全でしたでしょうか。

- ・参加人数も適当で、安全で快適だった。(15名)
- ・福岡市民病院・院長には、この時期に集まって意見交換ができる場を提供していただき感謝している。(2名)
- ・Zoomも検討してもらえると良かった。

3. 「上級看護管理者のためのマネジメント探求プログラム」の今後についてご意見がありましたら、お書きください。

- ・今回が2回目の参加だった。ぜひ、今後も機会を作っていただければ参加したいと思う。
- ・色々な気づきがあった。何らかの形で活かしていきます。
- ・研修を継続していただけるとありがたい。(他2名)
- ・単発でも良いので継続したい。看護管理実践の報告も聞けて、井部先生に学びたい。
- ・今回のように、年に2回の1回半日という研修は参加しやすい。短時間であっても意義がある

(学びになる)。井部先生は大変かと思いますが、年に1~2回程度でも来ていただければと思う。

- ・年に2~3回のフォローアップやテーマ(看護のアジェンダ)に沿った看護管理を語る場を行ってほしい。また企画があったら参加したいと思う。
- ・色々なところの看護部長が集まり、ディスカッションできる機会、ネットワークができることは素晴らしいことだと思う。
- ・型は違ってくると思うが、マネジメントの探求は続けていきたい。
- ・今日、発言することができなかったが、皆で自由に語り合える時間があることを今後も期待する。
- ・第4回目シリーズをお願いします。

4. その他、率直なご意見をご記入ください。

- ・井部先生が言われた、認定看護管理者の教育課程について見直されると良いと思いました。私自身、サードレベル終了後、MBAを取得しに再学習しました。もっと実践に活かせる内容や自分自身の管理に対する研究などができるようになった。
- ・認定看護管理者教育課程を単位制にする等、今後の検討課題にしていただきたい。
- ・本当に勉強になりました。またお願いします。
- ・井部先生の意見を聞ける、“つつこんで”思考を刺激してもらえる研修だった。
- ・明日から自分がやるべき課題、やらなければならない課題がみえてきた気がします。スピード感をもって実行していこうと思う。
- ・2017年度から参加し、「看護のアジェンダ」を学び、自分自身が上級看護管理者へと役割変化することも対応できたと思う。しかし、役割葛藤は役割を担う間続くと思われ、看護管理を学んでいきたいと思う。
- ・自分自身の課題ではあるが、意見を活発に発言できるようにしていきたいと考えている。
- ・本会を参集式で開催していただきありがとうございました。
- ・皆さんの意見を参考にさせていただきます。
- ・認定看護管理者の教育課程単位制に賛成です。私はまだ未受講ですので、よろしくお願いします。